

AFICAT、および JICA農業機械化支援の進捗

2024年6月13日 AFICAT有識者会合

経済開発部農業・農村開発第2G

鈴木文彦

AFICAT設立経緯・進捗概要

2019年8月

TICAD7
官民ビジネス対話

農業機械化を含む先進農業技術の普及に向けて、日・アフリカの官民連携による「日・アフリカ農業イノベーションセンター（Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology: AFICAT）」が提案された。



第I期
2020年4月～
2022年2月

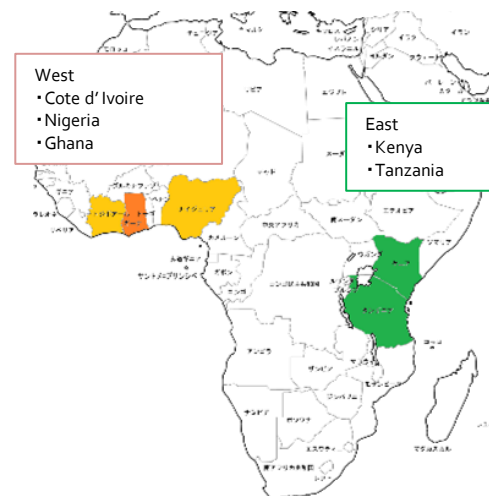
アフリカ地域先進農業技術の導入促進に係る基礎情報収集・確認調査

・4カ国（タンザニア、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリア）で現地調査。
・基礎的な情報の収集、枠組みの整理、一部活動の試行を実施

第II期
2022年2月～
2024年2月
（約2年間）

アフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化振興にかかる情報収集・確認調査

・5カ国（タンザニア、ケニア、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリア）で稼働
・現地ネットワークの構築、具体的な試行活動の実施
・中長期的なAFICATの役割案の検討



Now we are here!

第III期
2024年2月19日～
2026年2月27日
（約2年間）

アフリカ地域サブサハラアフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化展開に係る情報収集・確認調査

・中長期的なAFICATの実施体制構築に向けて、具体的な試行活動の拡大、現地ネットワークの拡大の取り組む。
・JICA事業への取り込みや連携も強化
・重点対象国はタンザニア、ケニア、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリア。その他対象国はSSA諸国。



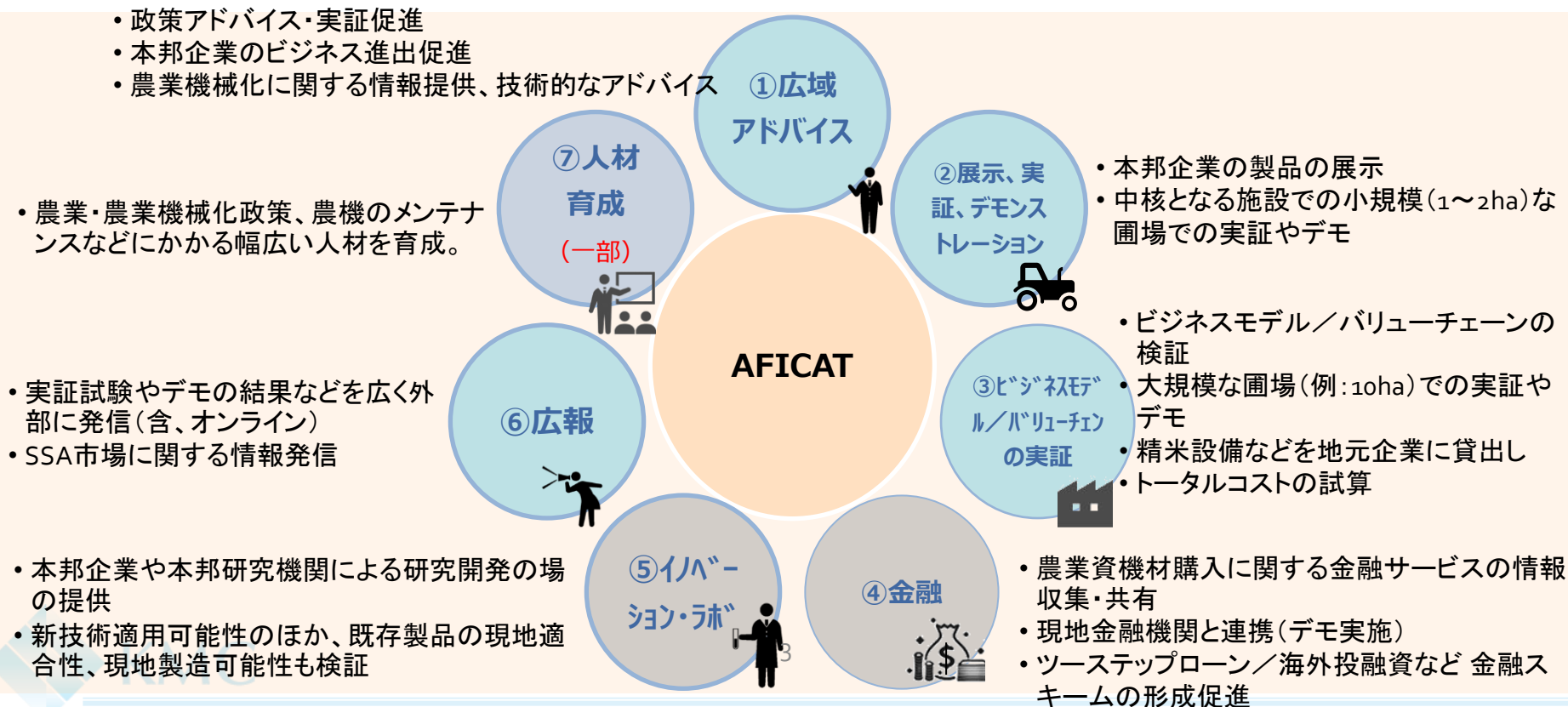
重点対象国の
JICA各国事務所／
JICA専門家

日本国内中心

SSA5カ国

AFICATの7つの機能と前回調査の結果

AFICATの7つの機能



現調査では、①広域アドバイス／②展示、実証、デモンストレーション／③ビジネスモデル／バリューチェーンの実証、及び⑥広報において、進捗あり。⑦人材育成においても、一部分(政策面の支援・農機のメンテナンス等にかかる幅広い人材の育成など)貢献。一方、④金融、⑤イノベーションラボは殆ど取り組めず。

前回有識者会合2023年12月コメント

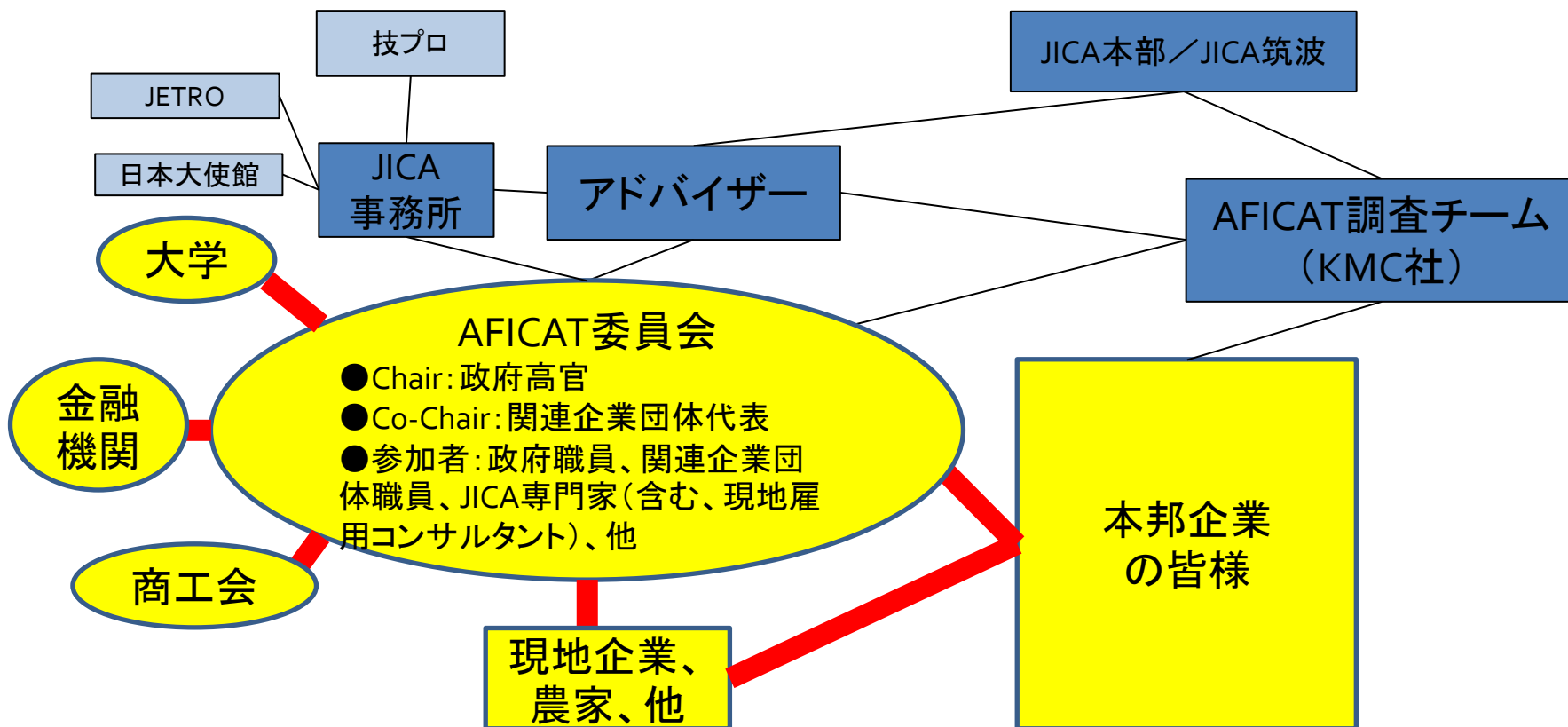
No.	有識者からのコメント	対応進捗
1	現地の技術者を日本に渡航させ、販売店で数年メンテナンス技術を教育するとよい。	新規課題別研修(SAMU)の立ち上げ。(⑦)
2	市場規模が不明確＝地域的なマーケット単位での情報発信を要検討	アドバイザー・現地AFICAT窓口と連携を強化した情報発信、よりニーズに沿った勉強会(①)、HP・ニュースレター等での発信(⑥)
3	代金回収リスク＝現地販売店の資金繰りをよくするための金融の仕組みづくりができないか	農業Two Step Loan形成の動き(④)
4	本邦招へいなどを通じて人的交流を促し、ビジネス機会を創出する取り組みを行い、特に現地のフォーカルパーソンを育成して持続的に活動を行うことが重要。	引き続きの本邦招聘を計画(⑦)。また、アドバイザーとも連携しAFICAT委員会を正式に立ち上げ(ケニア(①))
5	本邦企業は現地の状況がよく分からないため、現地にいる関係者がパートナーとなる企業を掘り起こして情報共有してもらうことが重要。	アドバイザーや現地AFICAT窓口等と連携し、ネットワークを広げ、対応力を強化中(⑦)
6	コートジボワール、ナイジェリアからJICA長期研修員を大学で受け入れている。AFICATに関心を寄せているため、自主的に提案をまとめた大学としてもJICAが進める民間事業の海外進出を人材育成や研究的な視点から支援していきたい。	共創ハブ(JICA筑波)では留学生と出展企業の連携機会を提供。Agrinet(JICA農業分野留学生のネットワーク)等でのプレゼン等、参画企業様との連携機会の強化を模索していきます。
7	市場を地域としてとらえることが重要	アドバイザー・現地AFICAT窓口と連携を強化した情報発信、よりニーズに沿った勉強会(①)、HP・ニュースレター等での発信(⑥)
8	広報の強化も重要。アフリカでは中国やインド企業が活発にビジネスを展開。本邦製品は品質がいいので将来的に売れていくだろうという期待だけでなく、現地に根差したビジネス展開をして日本の存在を現地で強調する必要がある。例えば現地の展示会に出展したり、日本から視察団を派遣したりしながら、日本を積極的に発信するのがよい。	展示スペースの設置(タンザニア、ケニア)、AFSフォーラム(9月、ルワンダ)での展示、等(②)。

前回会合（2023年12月）以降の動き

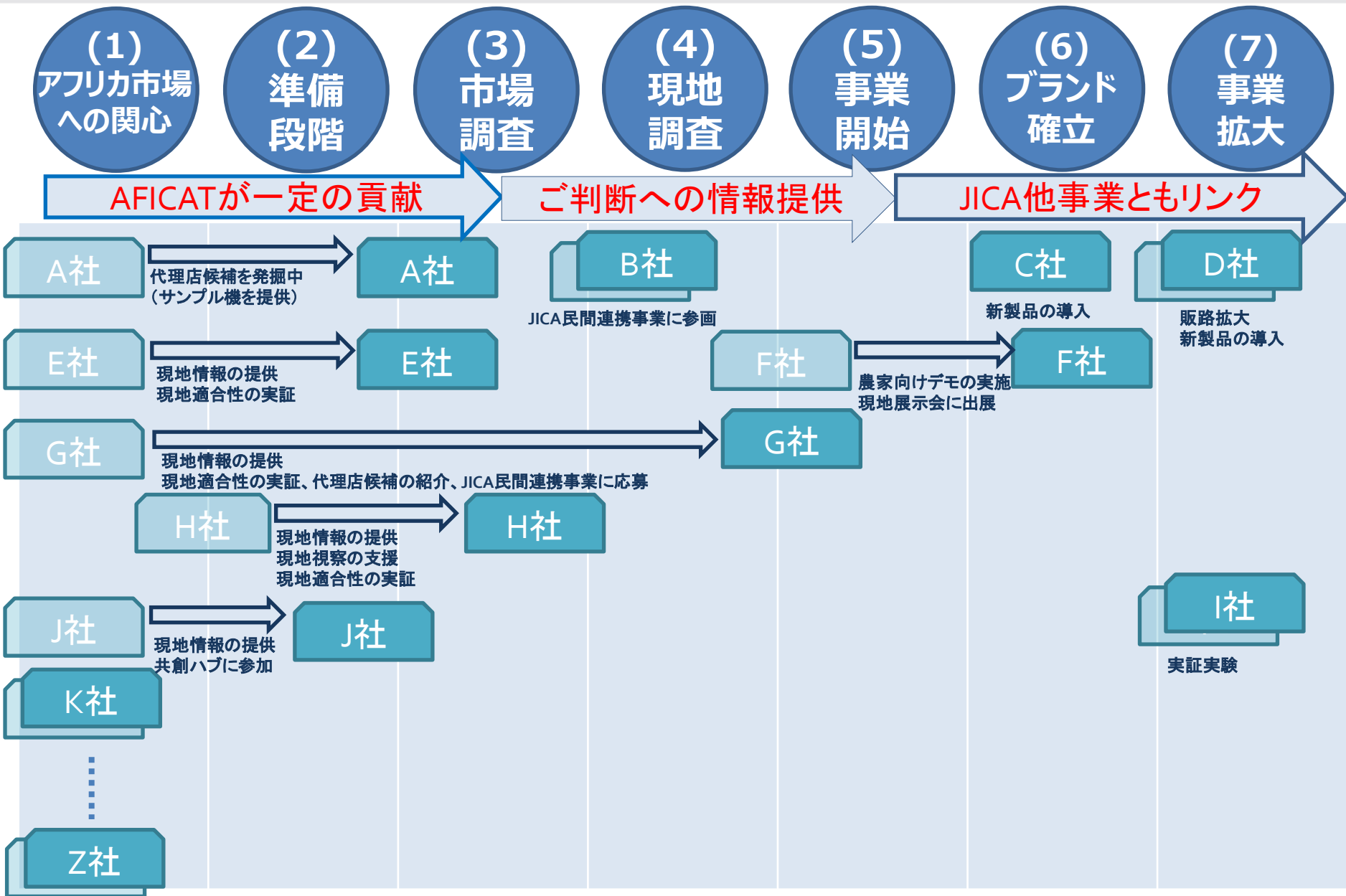
7つの機能	海外での機能	国内での機能
① 広域アドバイス	・新規アドバイザー（個別専門家）の派遣（タンザニア） ・アドバイザーと連携し、現地AFICAT委員会を設立（ケニア） ・アドバイザーからの情報提供（ケニア、タンザニア、ナイジェリア）	・前回調査報告書の公開（JICA図書館HPより） ・AFICAT調査チームによる活動（よりニーズに沿った勉強会、セミナーの開催、等）
② 展示、実証、デモンストレーション	・AFICAT調査チーム中心の活動（常設展示スペースの整備（ケニア、タンザニア）、アフリカ域内イベントへの参画（協議中））	・AFICAT調査チームによる活動（国内展示会への出展、等） ・JICA筑波共創ハブ（6/21開催）
③ ビジネスモデル／VCの実証	・AFICAT調査チーム中心の活動（実証委託先候補のご紹介、等）	
④ 金融	・農業Two Step Loan（有償資金協力）の開始（タンザニア）、形成調査の実施（ナイジェリア） ・（無償）農家の機械化サービスへのアクセス向上を支援（コートジボワール）	・AFICAT調査チームによる活動（勉強会等での事業概要の共有、等）
⑤ イノベーション・ラボ		
⑥ 広報	・AFICAT調査チームによる活動（ニュースレター、Website、等）	・JICA HP上での公開 ・AFICAT調査チームによる活動（ニュースレター、Website、等）
⑦ 人材育成	・実務者研修「持続可能な農業機械利用（通称SAMU）」の立ち上げ（来日中）⁵ ・研修「農業機械化促進（通称PAMA）」の実施。	・AFICATフォーカルの本邦招聘（計画、2025年度想定）

現地AFICAT委員会 (AFICAT Committee) について

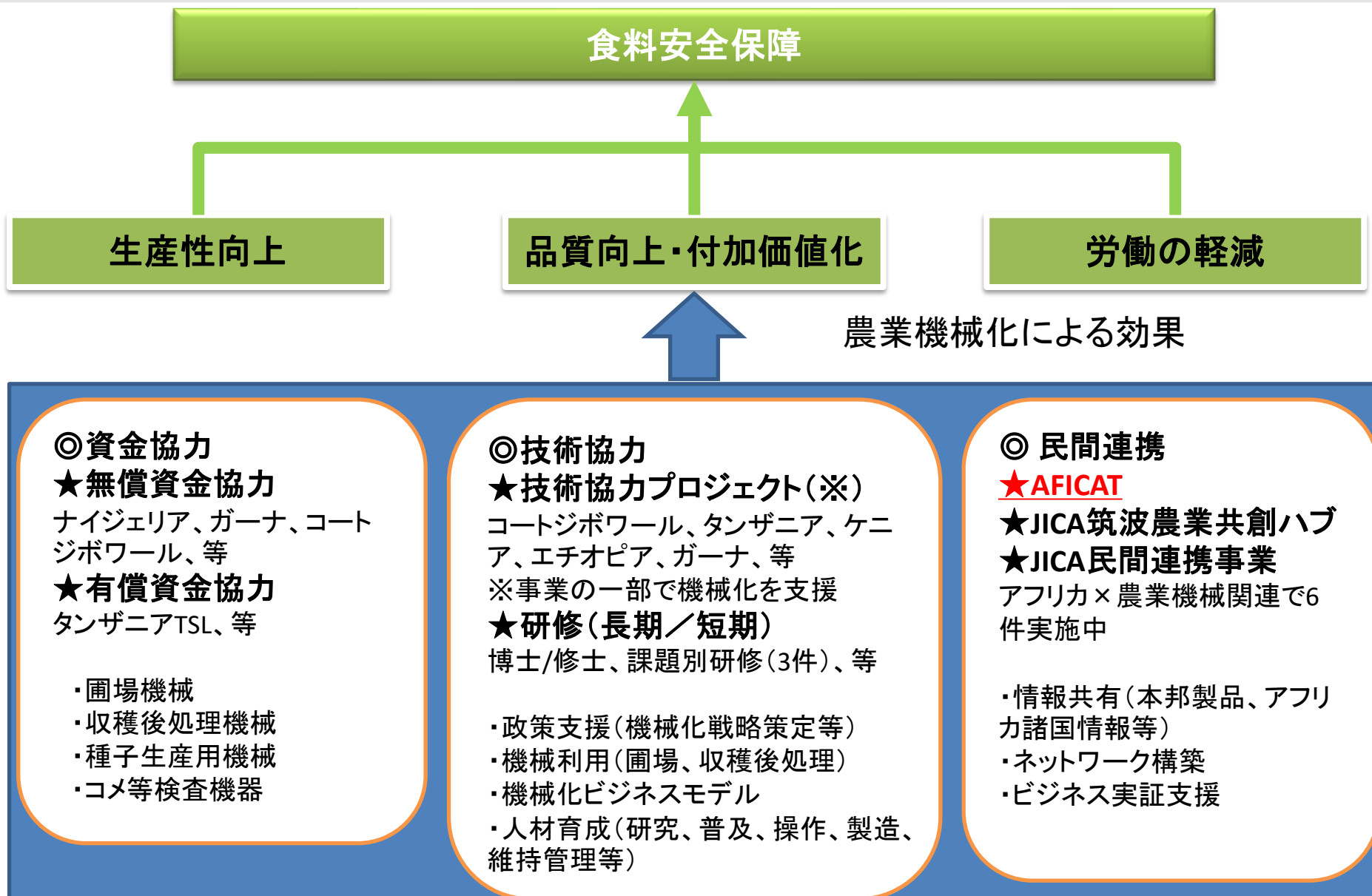
- ・政府上層部をChair（※ケニアでは事務次官補）とした委員会で、AFICAT活動計画の承認、共有、調整を行う。政府との連絡チャンネルとしても期待。
- ・委員会事務局員の能力強化をAFICAT／アドバイザーが支援。
- ・情報の提供、実証試験の仲介、代理店候補情報、金融情報の提供等を行う関係機関と繋ぐ役割等、将来的に同委員会事務局が、本邦企業の皆様の窓口として機能する形を目指す。



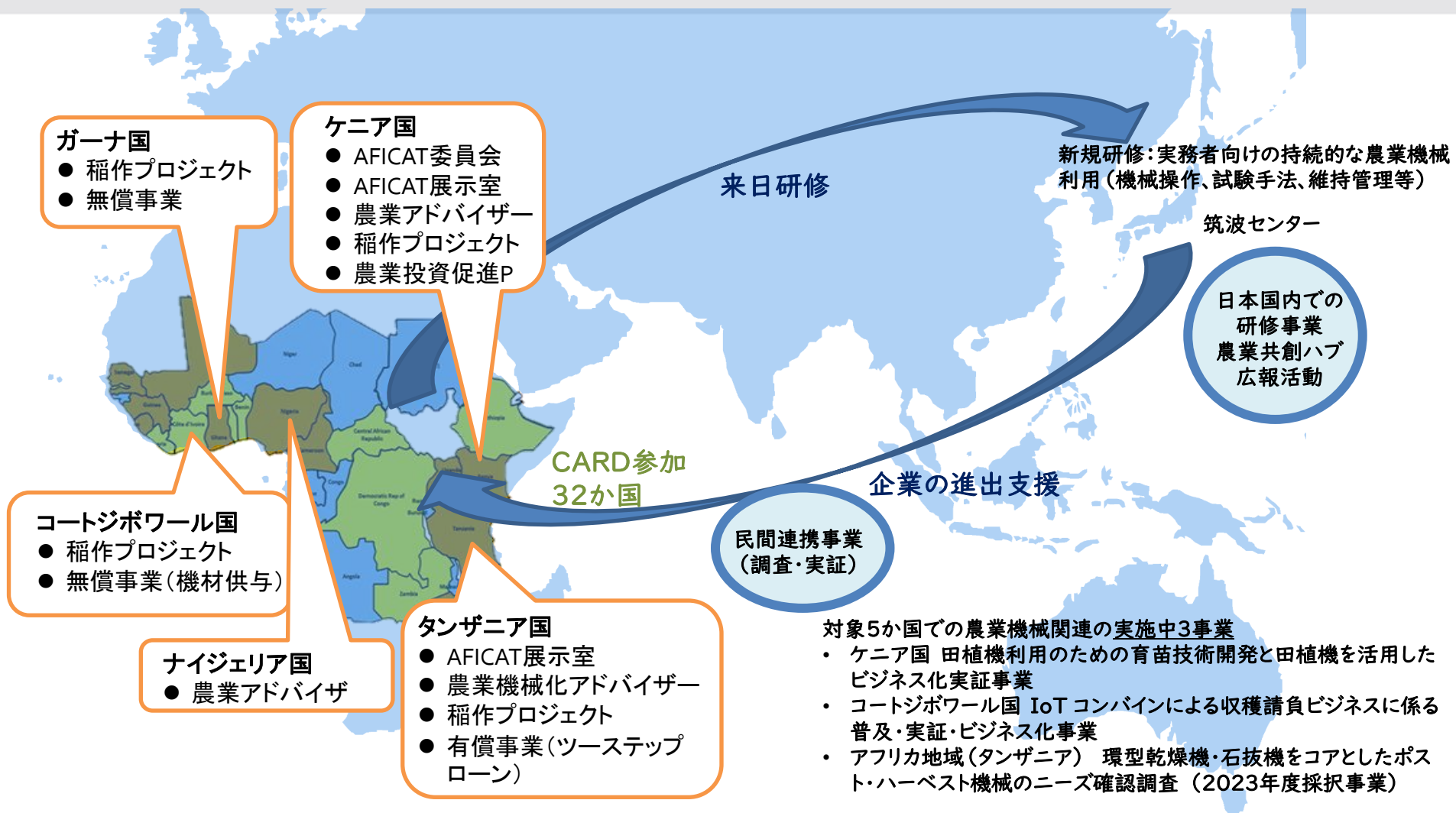
前回会合（2023年12月）以降の動き



AFICATとアフリカ農業機械関連支援



AFICATとアフリカ農業機械関連支援



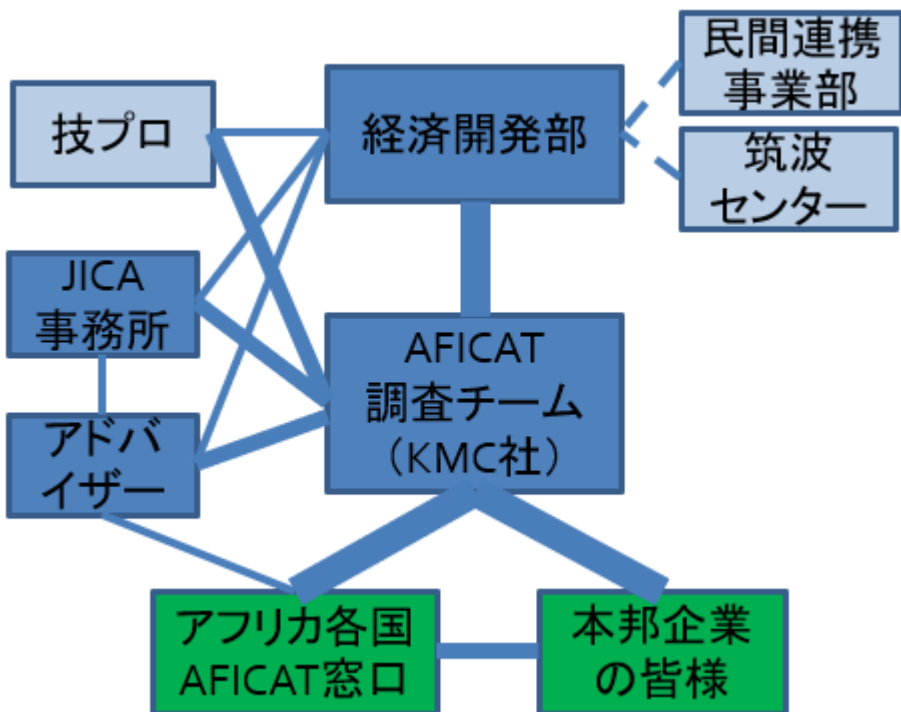
多様なJICA事業が、AFICATに参画される
本邦企業のアフリカ進出を支援します。

2024年2月からの実施体制

AFICAT調査チームから、AFICATチームによる実施へ

- ・海外での機能は、各国AFICAT委員会／窓口を個別専門家(アドバイザー)やJICA事務所も支援する形へ。
- ・JICA内複数部署(右図の赤字)＋AFICAT調査チーム間でAFICAT拡大定例会を毎月開催。JICA内の様々な事業間での情報共有を強化。

2024年2月まで



2024年2月以降

